

第8 地域文化の振興等

1. 現況と問題点

○川内地域

本地域では、縄文・弥生時代の遺跡が数多く発見されているほか、下北の代表的な中世遺跡として注目されている鞍越遺跡が存在することから、埋蔵文化財等を調査・保存し、活用を図る必要がある。

また、県無形民俗文化財に指定されている川内八幡宮例大祭の山車行事や各集落の神楽等の多様な文化、郷土芸能等の伝承活動の推進を図っていく必要がある。

○大畑地域

本地域は、10 か所を超える遺跡が存在し、先人の生活様式や生産活動の事跡、変遷を知る貴重な資料が出土し、二枚橋2遺跡出土品は重要文化財に指定されている。また、大畑公民館には郷土史家・故笹沢善八氏の業績を記念した笹沢文庫があるが、管理、活用面での課題を抱えている。

平成12年には、例年9月に行われる大畑まつり(大畑八幡宮例大祭)の山車行事が県無形民俗文化財に指定されている。

○脇野沢地域

本地域では、縄文時代を中心とした貴重な遺跡が28か所確認されており、その記録保存された遺物等の公開展示が必要となっている。

また本地域は、特別天然記念物「カモシカ」の生息地や天然記念物「下北半島のサルおよびサル生息北限地」としても知られるが、近年その個体数の増加に伴い遊動域が拡大し、農作物等へ被害が増大していることから、適正な管理が急務となっている。

さらに、地域に定着した脇野沢八幡宮例大祭があり、県無形民俗文化財でもある山車行事や郷土芸能等は、貴重な文化遺産として長く守り伝えていく必要がある。

2. その対策

- ・住民が高度な文化・芸術に触れることのできる環境づくり
- ・様々な文化・芸術活動に参加しやすい体制づくり
- ・地域に根ざした文化活動の支援
- ・史跡など文化財の保護、継承
- ・郷土芸能の保存と後継者育成
- ・天然記念物の保護と適正な管理